

授業科目 NO. 806 助産診断技術学Ⅲ (産褥期・新生児期)

Midwifery Diagnosis and Skills III
(Puerperium and Neonatal Periods)

授 業 の 形 態 : 講義

単位数 (時間数): 2 単位 (30 時間)

開講年次・学期: 3 年次・後期

必修・選択の別: 選択・助産師選択コース必修

キ ー ワ ー ド : 産褥期、新生児期、助産過程、母子の健康診査、母乳育児支援

1 金沢医科大学看護学部への到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学 修 目 標

1) 一般目標 (GIO)

正常および異常な経過にある褥婦・新生児の特徴や変化を踏まえ、産褥期・新生児期の助産過程の展開に必要な知識を修得する。

2) 行動目標 (SBO) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部への到達目標との関連を示す。

- (1) 産褥期・新生児期の助産診断に必要な情報を体系的に記述できる。(②)
- (2) 事例を通して産褥期および新生児期の助産診断プロセスを理解し、個別性のある助産ケア計画を立案できる。(①②)
- (3) 産後 1 か月までの母子健康診査の目的と内容、および評価指標について説明できる。
(②③)
- (4) 母乳育児を評価するために必要な情報と支援について説明できる。(②③)

3 学 修 内 容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	40%
実習成績	
レポート	50%
授業態度	10%
小テスト	
口頭試問	
その他	
合計	100%

(特記事項)

授業態度は、グループワークの参加状況、講義やレポート課題において必要となる学修への積極的態度や教員との連絡・調整力等から評価を行う。

5 教 育 担 当 者

科目責任者 : 山崎 智里

准 教 授 山崎 智里 (母性看護学・助産学)

6 教育担当者の実務経験

担当教員は看護師・助産師としての実務経験を有している。

7 教 科 書

- 1) 江藤宏美 (編) : 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア、日本看護協会出版会
- 2) 小林康江編 : 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会
- 3) 北川眞理子、内山和美 (編) : 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、南江堂
- 4) 水野克己 : 改訂第3版 よくわかる母乳育児、へるす出版

8 推 薦 参 考 書

- 1) 我部山キヨ子、藤井知行 (編) : 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期、医学書院
- 2) 石井邦子、廣間武彦 (編) : 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期、医学書院
- 3) 水野克己 (著) : 母乳育児支援講座、南山堂
- 4) 公益法人 日本産科婦人科学会、公益法人 日本産婦人科医会(編) : 産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023、公益法人 日本産婦人科学会事務局
- 5) 病気が見える Vol.10 産科、Medic Media

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学習内容

- 1) 授業 1 コマにつき、事前学修・事後学修として計 180 分程度必要である。
- 2) ウィメンズヘルス看護学で学修した看護過程展開を見直し、産褥期・新生児期に関する知識の復習を行っておくこと。また、助産診断立案過程では、教科書、推薦参考書等を基に幅広い知識を得ることが必要である。学修内容はノートにまとめ、理解できない内容については、授業時に教員の指導を受けて学修を進めること。また、学修の進め方や内容については授業毎に説明する。
- 3) 産後 1 か月までの母子の健康診査について、本学図書館所蔵の乳幼児健診マニュアル 第 7 版（電子ブック）等の乳幼児健診に関する本や教科書等を読み、退院後 1 週間健診および 1 か月健診の診査項目と基準値についてノートにまとめて記載しておくこと。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

レポートは、作成過程および提出後に直接コメントしてフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) しっかりと準備学修をして授業に臨むこと。
- 2) レポートは、主体的かつ積極的に教員の指導を受け、計画的に作成すること。
- 3) 作成したレポートは、実習時に活用するので整理しておくこと。
- 4) 授業時にはパソコンを持参すること。

12 オフィスアワー等

質問は随時可。ただし事前にメール連絡等することが望ましい。

山崎 E-mail : chisasa@kanazawa-med.ac.jp

助産診断技術学Ⅲ（産褥期・新生児期）

第3学年

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
後	1	11月06日（金）	1	講義	母乳育児支援		母性看護学・助産学	山崎准教授
後	2	11月06日（金）	2	講義	産褥期・新生児期における助産過程とは、助産診断に必要なアセスメント・ツール		母性看護学・助産学	山崎准教授
後	3	11月13日（金）	1	講義	産褥期・新生児期の助産診断とケア：全身状態1	ケーススタディ	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	4	11月13日（金）	2	講義	産褥期・新生児期の助産診断とケア：全身状態2	グループワーク	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	5	11月20日（金）	1	講義	産褥期・新生児期の助産診断とケア：全身状態3	レポート	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	6	11月20日（金）	2	講義	産褥期の助産診断とケア：産褥経過における心理・社会的側面1	ケーススタディ グループワーク	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	7	12月25日（金）	1	講義	産褥期の助産診断とケア：産褥経過における心理・社会的側面2	レポート	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	8	12月25日（金）	2	講義	産褥期の助産診断とケア：母乳育児1	ケーススタディ	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	9	1月08日（金）	1	講義	産褥期の助産診断とケア：母乳育児2	グループワーク	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	10	1月08日（金）	2	講義	産褥期の助産診断とケア：母乳育児3	レポート	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	11	1月15日（金）	1	講義	産褥期の助産診断とケア：親役割獲得1	ケーススタディ	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	12	1月15日（金）	2	講義	産褥期の助産診断とケア：親役割獲得2	グループワーク	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	13	1月22日（金）	1	講義	産褥期の助産診断とケア：親役割獲得3	レポート	母性看護学・助産学	山崎准教授
後	14	1月22日（金）	2	講義	産後1か月まで母子の健康診査1		母性看護学・助産学	山崎准教授
後	15	1月29日（金）	1	講義	産後1か月まで母子の健康診査2	レポート	母性看護学・助産学	山崎准教授
後		2月05日（金）	2	試験	定期試験		母性看護学・助産学	山崎准教授